

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
TEL 06-6765-8904  
FAX 06-6765-8905

## 2023年度 大障教本部交渉

12月25日、大障教は教育振興室長をはじめ、各担当課長と本部交渉を実施しました。交渉には、27人が参加し、学校予算、旅費予算の増額や学校の適正規模・適正配置等による教職員の負担軽減、調理業務民間委託に関わる栄養教諭の負担軽減と複数配置、寄宿全教員の代替措置、超過勤務解消に必要な条件整備、看護師の定数外配置等による教職員の負担軽減などの重点要求について、担当課長の見解をただし、改善を求めました。交渉での主なやりとりを紹介します。

### 学校の「過大・過密」「教室不足」「教員不足」解消等による 教職員の負担軽減



あいさつする  
西面執行委員長

市に新校ができるのと各校が適正規模となる。併せて熊取や泉佐野から佐野支援を越えて、遠い泉南支援まで通っている実態などを訴えまし

た。八尾支援学校分会からは、通学区域割の変更によつ

て高等部生徒が激減し、小中学校の児童生徒が激増するものと、今年度は児童生徒数は1名増で教員が11名減ったことにより、教職員は疲弊し、子どもたちの安全も脅かしている状況などについて訴え、教職員増と新校整備を求めました。

府立支援学校の「過大・過密」「教室不足」の実態について、泉南・八尾各支援学校分会から発言しました。泉南支援学校分会からは、小学部児童の増加で教室が足りない、泉南支援学校と佐野支援学校の在籍数は合計約600人で岸和田



八尾支援分会  
岩崎さん

は、寄宿舎教員の宿直の問題について、教職員人事課は「週2回の宿直が発生していた事実をはじめ、寄宿舎の勤務条件に関する事項につきまして、適切な状況把握や、学校との情報共有ができていなかったことを重く



泉南支援分会  
奥野さん

大障教は、「過大・過密」「教室不足」を解消するために、抜本的な支援学校増設を求め、「過大・過密」等によって教員不足が深刻な学校には大阪府として人員を措置するよう求めました。

大障教は、「過大・過密」「教室不足」を解消するために、抜本的な支援学校増設を求め、「過大・過密」等によって教員不足が深刻な学校には大阪府として人員を措置するよう求めました。



四條畷校分会  
鈴木さん

域割を是正し、通学区域割の決定においては地域の保護者や関係者の声を聞くことを求めました。支援教育課は「本校化に向けて、予算要求の作業をしている段階、通学区域割については実際に使われるみなさんの声を聞くのは大事」と述べるにとどまりました。

### 寄宿舎教員の代替措置について、 府教委「常勤職員での配置を検討」

大障教が専門部交渉で指摘した、寄宿舎教員の宿直の問題について、教職員人事課は「週2回の宿直が発生していた事実をはじめ、寄宿舎の勤務条件に関する事項につきまして、適切な状況把握や、学校との情報共有ができていなかったことを重く

受け止めている」と謝罪し、「宿直業務の重要性を鑑み、寄宿舎指導員の代替配置については、常勤職員を配置できるように、検討する」と回答しました。寄宿舎教員部が、長年要望してきたことが実現へ向けて、おおきく前進しました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : [fushoukyou\\_1@mtb.biglobe.ne.jp](mailto:fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp)

### 書記部の 25th ANNIVERSARY

25th ANNIVERSARY



障害のある方が気軽に参加できる「成人式」として、北河内の家族や教員、作業所職員が集まって企画し、2002年1月に寝屋川市で第1回目が開催されて今回で23回目を迎える「北河内二十歳のつどい(旧 成人のつどい)」が、1月20日に開催された。

コロナ禍での休止期間を経て4年ぶりに2部制で開催されたつどいには、北河内地域の支援学校(交野・四條畷・寝屋川・枚方・守口・むらの高等支援)出身の青年たちや保護者・関係者が集い、新成人の紹介やダンスなどのお楽しみ企画等を交えた2時間は、温かい雰囲気の中で参加者全員から終始笑顔が溢れていた。

私が小学部時代に担任した子どもたち(自分の気持ちに折り合いがつけられず、パニックからガラス扉を下派手に破損してしまう子、自傷・他害を通してしか思いを表現できなかった子等。パワフルな学生)が、「僕の夢はお酒を飲むことです!」「タオルを畳む仕事をがんばっています!」等壇上で誇らしげに語る姿は大変感慨深かった。また、学齢期の紆余曲折を経て、わが子の姿を微笑ましく見守る保護者を見て目頭が熱くなった。

学校時代に関わった子どもたちが次のステージに巣立ち、素敵な青年に成長した姿をみんなでお祝いできる機会に立ち会える喜びは、まさに「教師冥利に尽きる」の一言だ。しかし、教員の多忙化の中でこうしたとりくみにも「働き方改革」の波が押し寄せてきており、人格の完成をめざす「教育」を取り巻く環境は本当に世知辛い。ぼやきで結ぶのは心苦しいが、「新成人のみなさん おめでとう!」と笑顔で祝える寛容な社会をみんなであつくりたいものかなあ...

# 2023年度大障教本部交渉 (表面からの続き)

## 調理業務民間委託に関わる 栄養教諭の負担軽減、栄養教諭の複数配置を



摂津支援学校分会 岸田さん

摂津支援学校分会からは、

9月の株式会社「ホーユー」の調理業務停止で、給食がストップし、子どもたちに大きな影響があったことや栄養教諭をはじめ教職員に多大な負担が生じた実態、以前から調理員が足りておらず調理に問題があったこと、「府直営であれば起こらなかった問題」という教職員の声を、分会アンケートをもとに訴えました。

保健体育課は、給食停止の問題について、「起きてはいけない事態」と述べましたが、「令和6年3月からの調理業務委託を開始する入札において、これまでの受託業務の履行状況など技術面を評価する総合評価一般競争入札を採用することとした。現時点で資格要件などを令和元年8月業務開始の要件にもどすことは

重畳要求について見直しをたし、改善を求めました

考えていない。技術面を評価する総合評価一般競争入札の導入により、より安定的な学校給食の供給を行えるものと考えている」と回答しました。

大障教は、特定の業者の問題ではないこと、府教委として

### 看護師の定数外配置等による教職員の負担軽減

医療的ケアを要する児童生徒が増加し、医療的ケアの内容も高度化・多様化している実情を訴え、看護師を定数外で常勤配置することを求めました。支援教育課は、「国の切れ目のない支援体制整備充

民間委託化の検証と仕様書の抜本的見直しを強く求めました。

栄養教諭の複数配置については、人事課は「標準法を

実事業補助金を活用した通学支援校内体制整備看護師を学校の状況に応じて配置し、校内体制に充実に努めている」と回答しました。常勤看護師については、「教員定数を崩していることは、負担になっ

困難」と回答しました。大障教からは、民間委託化のもと栄養教諭の業務負担が増している実態を訴え、早急に複数配置をすることを求めました。

ているという認識はある」と述べつつ、「引き続き、国に対して看護師の標準法定数内配置の義務付けを要望していく」との説明にとどまりました。

### 学校管理費・旅費予算増額等による教職員の負担軽減

多くの学校で、授業に必要な備品について、老朽化等により買い替えの必要性が生じても高額のため、購入できず学習活動に影響が出ている実態を示し、教職員の負担を軽減し安全に活動するためにも予算の増額を求めました。施設財務課は、「厳しい財政状況の中ではあるが、今後とも

学校運営に支障がないよう、必要な予算額の確保にしっかりと努めてまいりたい」と説明しました。

今年度は、多くの学校で宿泊行事がコロナ禍以前の形に戻ると、ホテル代が高騰しており、条例改正も含めて宿泊費用の抜本的増額を求めました。併せて、食費の自己負担が増えていることも指摘しました。学校総務サービス課は、「府の財政は依然厳しい状況にあるが、今後とも引き続き、生徒の安全管理や学校運営に支障をきたさないよう、財源の確保に努める。管外出張等に伴う宿泊料については実費額で支給できるように、検討している」と説明しました。

### 腰痛予防検診の改善

腰痛予防検診の周知やアンケートの配布について、実施要領通りに取り扱われていない学校があったことや、大障教のアンケート結果をもとに腰痛予防検診についての要望を伝え、改善を求めました。福利課は、「一部の学校の事

### 超過勤務解消に向けた抜本的な対策を

「働き方改革」のもと、「一斉定時退庁日」の設定などで、残業時間としては減っているが、持ち帰りの仕事が増えている。休憩時間が取れない状況や、教員不足の実態を訴え、あらためて実態把握のためのアンケートの実施を求めました。教職員企画課は「府立学校における働き方改革をすすめるため、令和5年

例は承知している。腰痛予防検診の趣旨やアンケートの提出について、周知を徹底していく」と述べました。さらに、腰痛予防のためのノーリフトケアの導入について、具体化を求めました。福利課は「来年度より肢体不自由校のうち

4月から校務運営の効率化の取組及び週1回以上の全校一斉定時退庁日の取組を開始」「府立学校及び教員を対象に働き方改革の取組状況や基本的な業務量を把握するためのアンケート調査を実施した、今後アンケート結果の分析をすすめる、府立学校における課題を把握するとともに、これに対応する取組を検討し、更

数校を対象として、福祉用具の「床走行式介護リフト」をリースし、教職員の腰痛予防対策として活用し、その実用性を検証する事業を実施予定である。今後関係課と連携し、職場環境の改善にも努めていく」と回答しました。

なる働き方改革をすすめる」と述べるにとどまりました。大障教は、適切な支援学校建設がすすまないも、大・過密化が進行し、そのもとで多忙化が深刻になっていることなども指摘し、超過勤務を解消するためには、大幅な人員増が必要であることを重ねて要望しました。

中教審に声を届けます

学校がもたない！緊急アンケート



みなさんから寄せられた声は、記者発表をおこなって社会的にアピールします。

期間：2月6日から29日まで  
← アンケート記入ページ

長時間労働防止署名をすすめるネットワーク  
事務局：全日本教職員組合 / 新日本婦人の会 / 全日本退職教職員連絡協議会